

共同研究事例 I

共同研究者
学校法人五島育英会
東京都市大学

概要

現在、スマートシティ事業は日本各地で進められています。川崎市においても、2015年3月に「スマートシティ推進方針」を策定し、翌年には改訂、エネルギーの最適利用やICTの活用等により、分野ごとにリーディングプロジェクトを中心に事業が進められています。

しかし、今後はこれらの取組を、一般的な既成市街地へと普及展開していくことが重要です。

東京都市大学(東京都世田谷区)と川崎市は、既成市街地における低炭素なまちづくりの実現に向けて、汎用性のある低炭素コミュニティの実現手法について、2014年度から共同研究を行っています。

既成市街地への普及展開には、二酸化炭素排出量の削減の取組だけでなく、防災性や生活利便性の向上、地域商業の活性化など住民や地域事業者にとって具体的にメリットのある仕組をすることが求められています。また、継続して進めていくためには、住民や地域の関係者自らがコミュニティレベルで(行政や専門家等の後方支援を受けながら)取組内容を企画し、それを運営する仕組みが必要となります。

2014年度は、川崎市内の地域特性のデータベース作成や商店街や市民団体を対象に聞き取り等を行い、低炭素商店街の実現に向けた課題等を抽出しました。また、登戸地区の2つの商店街を対象地域として決定しました。

2015年度は、商店街関係者、地域活動の団体、研究者が定期的に会合を行い、商店街の低炭素活動(エコポイントカード等)の実施やその効果検証を行うなど地域主導の仕組みづくりについて検討を行いました。

最終年度となる2016年度は、この期間行ったアンケート調査を合わせてとりまとめ、コミュニティ主導型の低炭素まちづくりの実現プロセスとロードマップを整理しました。また、地域活動の継続やその普及展開のために必要な組織化や役割分担、初動期から展開期の各段階に応じた各種支援策のあり方をまとめました。

この研究により、既成市街地における地域コミュニティが主体となった低炭素なまちづくりが展開促進されることで、民生部門の低炭素化の推進が期待されます。

地域活性化と環境共生を両立する低炭素コミュニティの実現手法に関する研究

低炭素社会の構築

川崎市の持つ資源

- フィールドの提供
- 商店街 登戸地区に係る基礎データ
- 市関係部署や市民団体との連絡調整

共同研究者の持つ資源

- 地域連携に係る知見
- 低炭素都市シミュレーション技術
- まちづくりに係るノウハウ

2014年度 低炭素商店街の実現への課題の抽出

- 川崎市の地域特性の抽出(データベース作成)
 - 商店街における低炭素施策メニューの整理
 - 実証展開地区の選定と企画(登戸地区の2商店街を決定)
- 登戸東通り商店会
 - 区役所通り登栄会商店街振興組合



地域で活動する多摩エコスタイルプロジェクトの参加 (商店街の年間エネルギー消費のシミュレーション)

2015年度 低炭素コミュニティの実現手法の検討

- 空閑地利活用事業の検討
- 商店街エコポイント事業の実施(エコポイントカードの開始)
- コミュニティにおける低炭素型ライフスタイルの普及促進構造の把握と普及展開手法の提案(周辺地域へのアンケートの実施)
- 既成市街地における段階的な環境技術導入の検討手法の構築と地域データベースの構築



登戸エコ会議



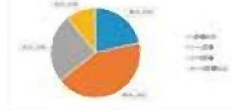
エコポイントカード(チラシ)



地域データベース(建物年代別)



エコポイントカードから得たデータ。



エコポイントカードから得たデータ。

2016年度 空閑地の利活用における効果検証と研究の総まとめ

- 既存コミュニティにおける低炭素まちづくりロードマップの構築
- コミュニティにおける低炭素型ライフスタイルの普及促進構造の把握と普及展開手法の提案
- 空閑地利活用事業の実証調査とその効果検証(二酸化炭素排出量の削減効果及び商店街利用の促進効果)
- 商店街エコポイント事業の実施とその効果検証(二酸化炭素排出量の削減効果及び商店街利用の促進効果)



地域イベント 登戸まちなか遊緑地。



商店街買い回りデータ 地域イベントのポスター